

平成28年度行政事業レビューシート (総務省)

事業名	地域振興に必要な経費（「地域経済循環の創造」の推進に要する経費、過疎地域振興対策に要する経費、定住自立圏構想推進費等除く。）			担当部局庁	自治行政局		作成責任者		
事業開始年度	不明	事業終了（予定）年度	終了予定なし	担当課室	行政課総務室（地域自立応援課）		室長 大場 高志 （課長 山越 伸子）		
会計区分	一般会計								
根拠法令 （具体的な条項も記載）	総務省設置法第4条			関係する計画、通知等	-				
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的 （目指す姿を簡潔に。3行程度以内）	人口減少社会の到来、地方分権改革の進展、地域の国際化など、地域をとりまく環境の変化を踏まえ、地方公共団体・住民・企業等の協働により「地域力」を高めていくとともに、各地域における人材力活性化を支援することなどにより、一層の地域活性化を進める。								
事業概要 （5行程度以内。別添可）	有識者等外部の提言や地方公共団体の意見を取り入れつつ、地域力創造施策を進めるとともに、地域の先進的な取り組みを全国に紹介している。また、地域における外部人材の活用を支援するとともに、人材力活性化施策の推進、地域間の連携交流の推進、地域の国際交流・協力の推進、地域の多文化共生の推進などにより、今後の地域力創造の展開を図る。								
実施方法	直接実施、委託・請負								
予算額・執行額 （単位：百万円）	予算の状況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	197	113	82	89	81		
	執行額	103	53	40					
	執行率（％）	52%	47%	49%					
成果目標及び成果実績 （アウトカム）	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	地域づくり人材の育成	全国地域づくり人材塾修了者数	成果実績	人	267	242	243		
			目標値	人	240	240	240		
			達成度	％	113.8	100.8	101.2		
成果目標及び成果実績 （アウトカム）	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	前年を超えるJETプログラム招致人数の確保	JETプログラム招致人数	成果実績	人	4,372	4,476	4,786	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	
			達成度	％	-	-	-	-	-
成果目標及び成果実績（アウトカム）欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載							<input type="checkbox"/> チェック		

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	地域力創造に関する施策説明会等の開催回数	活動実績						回	17
			当初見込み	回	17	28	19		
単位当たりコスト	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	地域力創造に関する施策説明会等の開催経費／開催回数	単位当たりコスト						百万円	0.1
			計算式	百万円/回	2.1/17	3.5/28	0.4/19		
平成28・29年度予算内訳 (単位：百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由					
	諸謝金	5	5						
	職員旅費	9.7	9.2						
	委員等旅費	7.5	6						
	庁費	44.2	39.7						
	地方振興対策調査費	20.3	19.4						
	その他(外国人招へい旅費等)	2.1	1.4						
	計	88.8	80.7						
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	Ⅱ.地方行財政							
		施策	2.地域振興(地域力創造)						
	測定指標		定量的指標	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標年度
		実績値							
		目標値							
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	地域振興に必要な経費を措置することにより、全国地域づくり人材塾の修了者が増加するなど、地域づくりに関する知識・経験を持った人が増加し、人材力の活性化や地域間の連携交流などが図られることで、地域の活性化に寄与する。								
	改革項目	分野:	-						
		(第一階層) KPI	KPI (第一階層)	単位	計画開始時年度	27年度	28年度	中間目標年度	目標最終年度
			成果実績		-	-	-	-	-
目標値				-	-	-	-	-	
(第二階層) KPI		KPI (第二階層)	単位	計画開始時年度	27年度	28年度	中間目標年度	目標最終年度	
		成果実績		-	-	-	-	-	
		目標値		-	-	-	-	-	
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									

事業所管部局による点検・改善			
	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	少子高齢化・人口減少社会が到来する中、厳しい財政制約の下では、地方公共団体、市民、NPO等の協働・連携により地域力を高める取組が必要とされている。地域振興、地方分権改革、地域の国際化の推進、多文化共生の推進といった地域力を高める取組は広く国民のニーズがあり、かつ優先度の高い事業である。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	少子高齢化・人口減少社会が到来する中、厳しい財政制約の下では、地方公共団体、市民、NPO等の協働・連携により地域力を高める取組が必要とされている。地域振興、地方分権改革、地域の国際化の推進、多文化共生の推進といった地域力を高める取組は広く国民のニーズがあり、かつ優先度の高い事業である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	少子高齢化・人口減少社会が到来する中、厳しい財政制約の下では、地方公共団体、市民、NPO等の協働・連携により地域力を高める取組が必要とされている。地域振興、地方分権改革、地域の国際化の推進、多文化共生の推進といった地域力を高める取組は広く国民のニーズがあり、かつ優先度の高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	調査研究に要する経費、印刷製本費等について、多額の場合は、一般競争入札を行い、少額のものについても複数者から見積をとるようして、競争性を確保している。
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	調査研究に要する経費、印刷製本費等について、多額の場合は、一般競争入札を行い、少額のものについても複数者から見積をとるようして、競争性を確保している。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	調査研究に要する経費、印刷製本費等について、多額の場合は、一般競争入札を行い、少額のものについても複数者から見積をとるようして、競争性を確保している。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	調査研究に要する経費、印刷製本費等について、多額の場合は、一般競争入札を行い、少額のものについても複数者から見積をとるようして、競争性を確保している。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	調査研究に要する経費、印刷製本費等について、多額の場合は、一般競争入札を行い、少額のものについても複数者から見積をとるようして、競争性を確保している。
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	調査研究に要する経費、印刷製本費等について、多額の場合は、一般競争入札を行い、少額のものについても複数者から見積をとるようして、競争性を確保している。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	魅力ある地方の創出、集落対策の一環として行っている地域おこし協力隊、集落支援員の数は年々増加傾向にある。外部専門家の活用については、「地域力創造のための起業家定住促進モデル事業」の実施により、地域づくりや新たな起業・ビジネス化に外部専門家を活用しようとする自治体が増えつつある。実際に、地域人材ネットに対する自治体等の問合せが増加し、地域人材ネットに登録した外部専門家を活用する自治体が増加している。JETプログラム招致人数はここ数年増加傾向にある。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	魅力ある地方の創出、集落対策の一環として行っている地域おこし協力隊、集落支援員の数は年々増加傾向にある。外部専門家の活用については、「地域力創造のための起業家定住促進モデル事業」の実施により、地域づくりや新たな起業・ビジネス化に外部専門家を活用しようとする自治体が増えつつある。実際に、地域人材ネットに対する自治体等の問合せが増加し、地域人材ネットに登録した外部専門家を活用する自治体が増加している。JETプログラム招致人数はここ数年増加傾向にある。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	魅力ある地方の創出、集落対策の一環として行っている地域おこし協力隊、集落支援員の数は年々増加傾向にある。外部専門家の活用については、「地域力創造のための起業家定住促進モデル事業」の実施により、地域づくりや新たな起業・ビジネス化に外部専門家を活用しようとする自治体が増えつつある。実際に、地域人材ネットに対する自治体等の問合せが増加し、地域人材ネットに登録した外部専門家を活用する自治体が増加している。JETプログラム招致人数はここ数年増加傾向にある。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	魅力ある地方の創出、集落対策の一環として行っている地域おこし協力隊、集落支援員の数は年々増加傾向にある。外部専門家の活用については、「地域力創造のための起業家定住促進モデル事業」の実施により、地域づくりや新たな起業・ビジネス化に外部専門家を活用しようとする自治体が増えつつある。実際に、地域人材ネットに対する自治体等の問合せが増加し、地域人材ネットに登録した外部専門家を活用する自治体が増加している。JETプログラム招致人数はここ数年増加傾向にある。

関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。 (役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		
	所管府省・部局名	事業番号	事業名
点検・改善結果	点検結果	<p>調査研究に要する経費については、各請負業者に対し、定期的に進捗確認を行い、事業完了時には請負業者から実績報告書等を提出させることにより、検査・確認を行っている。100万円を越える調達にあたっては、原則一般競争入札制度を実施しているが、今後もより多くの新規参入が可能となるよう、調達事務の改善を図るよう努める。この調査研究のうち、特に「地域力創造のための起業者定住促進モデル事業」については、23年度に事業を実施した結果、地域づくりや新たな起業・ビジネス化に専門知識を有する外部専門家の助言は効果的であること、また、当省の事業である「地域おこし協力隊」と外部専門家との連携が良い自治体においては事業効果が高いことが分かった。外部専門家の活用について自治体の関心が高まっていることから、担当課では事業の効果がつつあると評価しており、活動事例の蓄積や自治体等への活動紹介を引き続き実施していくことが必要と考えているところである。消耗品等の物品購入及び印刷製本については、使用及び配布実績等を踏まえ、業務上必要最小限にとどめているが、今後も引き続き留意する。旅費については、原則としてバック旅行を導入し効率的な執行に努めている。</p>	
	改善の方向性	<p>今後も引き続き、執行額を抑制し、コスト削減に努めていきたい。</p>	

外部有識者の所見

外部有識者による点検対象外

行政事業レビュー推進チームの所見

事業内容の
一部改善

更なる経費の効率化を図り、適正な予算執行に努めること。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

執行等改善

引き続き適正な予算執行に努める。

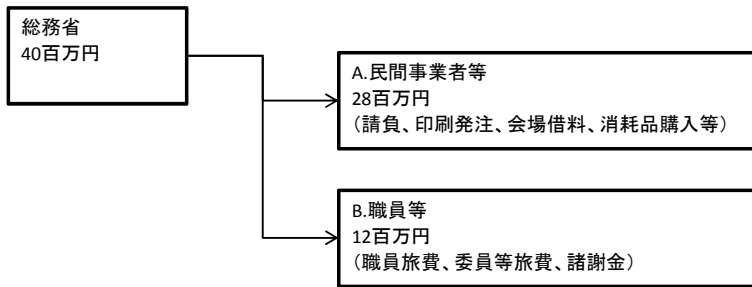
備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	0016	平成23年度	0020	平成24年度	0021	/
平成25年度	0013	平成26年度	0011	平成27年度	0010	

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)



費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	人材力活性化に関する調査研究事業	6	職員旅費	支出額が100万円未満のもの	0.2
計		6	計		0.2

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

手入力

